

オプジーボ（ニボルマブ）治療に関する説明書

説明日：平成 年 月 日

説明者：治療責任医師 阿部吉伸

◆施術について

1. 薬効

がん細胞が免疫細胞からの攻撃を回避するために持っているPD-L1を使えなくすることで、がん細胞にブレーキをかける抗PD-1抗体です。

2. 副作用 <確認した項目は、□にチェックをしてください>

□間質性肺炎

免疫性の肺炎で喫煙者や塵肺（ほこりの多い所で作業をされていた方）に多い病気です。痰のない乾いた咳（空咳）、息切れ、呼吸がしにくい、発熱などを生じます。症状の確認のため、KL-6マーカーでの採血検査や、確定診断のためのCT検査（すりガラス状陰影の確認）が必要になることがあります。冷たい空気に触れることなどで急激に呼吸状態が悪化し、急速に死に至ることがあります。

□肝機能障害

薬剤性に肝機能障害が生じ、疲れやすい、食欲がない、発熱、黄疸、吐き気、肝酵素の増加などを生じます。また、急激に肝不全が進行し、急速に死に至ることがあります。

□甲状腺機能低下症

甲状腺ホルモンが低下し、元気がない、疲れやすい、ねむい、寒がり、まぶたのむくみなどを生じます。症状が酷い場合は甲状腺ホルモンの薬（チラーヂン）の服用が必要となり、一生涯の服用が必要となることもあります。

□消化器障害

大腸炎などで下痢、腹痛、吐き気、嘔吐などが生じます。酷い時は大腸が穿孔し、腹膜炎となり急速に死に至ることがあります。

□皮膚障害

発疹や赤み、かゆみなどを生じます。全身に症状が現れると入院が必要になることがあります。

□神経障害

しびれや脱力、めまいなどを生じます。重症筋無力症を生じ、急速に死に至ることがあります。また、眼のブドウ膜炎を引き起こし、霧がかかったように見える、眩しい、虫が飛んでいるように見えるなどの症状を生じることがあります。進行すると失明することがあります。

□内分泌障害

頭痛や視野欠損、低血圧などを生じます。I型糖尿病になり、一生涯のインスリン注射が必要になることがあります。

□腎障害

むくみを生じたり、尿の色が濃くなります。透析が必要になったり、腎不全が進行し急速に死に至ることがあります。

□副腎不全

副腎皮質ホルモンの分泌が急激に不足するようになり、急性副腎不全（副腎クリーゼ）を生じます。全身の倦怠感、食欲不振、易疲労感（疲れやすい）、脱力感を前兆とし、その後、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、発熱、脱水症状、血圧低下、意識障害、呼吸困難となり急速に死に至ることがあります。

□薬剤へのアレルギー反応

発熱やふるえ、悪寒、かゆみ、発疹、高血圧、低血圧、血圧低下、心肺停止などを生じます。アナフィラキシー反応で急速に死に至ることがあります。

□副作用の重篤化により死亡することもあります。

□副作用の検査や治療は当院では行えません。また、それらにかかる費用は自己負担となり、保険診療の対象外（自由診療での請求）とされることがあります。

3. 適応

□担当医が適応と判断したがん（悪性新生物）

4. 投与手順（投与スケジュール）

5. 投与中の注意事項

6. 費用について

私（患者名）は、オプジーボ（ニボルマブ）治療につき、本紙に記載された全ての事項につきよく説明を受け、不明点は質問をして回答を得ました。

年 月 日

患者署名：

保証人署名：

（続柄： ）